伊豆半島の秘境 松崎町の「うめぇ」と「ゆったり」を10点

棚田、温泉、立体アート…魅力いっぱい

静岡県西伊豆にある松崎町って、ごぞんじですか？ 人口約7000人。静岡では、もっとも人口の少ない自治体です。でもね、ホタルの飛び交う棚田で遊べて、桜葉の生産量は日本一なんです。漆喰（しっくい）の3Dアートの巨匠の生まれ故郷で、廃業した老舗温泉ホテルの大復活も計画中だ。2月の休刊日プレゼント特集は、伊豆半島の文化の詰まった松崎町の「うめぇ」と「ゆったり」10点を集めてみました。

牛原山からの松崎の眺望、美しい

左から３番目が斎藤文彦町長。はやまの取材中に飛び込んできて、プレスマンユニオンの板倉さん（左端）らと「元気だねぇ」とニッコリ

電車なしバスだけ

伊豆半島の秘境。町民は胸を張ってこう表現する。電車はない。東海バスが沼津や三島からくるだけ。「さあ、行こう」と思っても、いざ行くとなると尻込みしてしまう。

ひとたび松崎町に足を踏み入れたら、その魅力にやられちゃいますよ。

雲見から海を見ると、その向こうにそれはそれはきれいな富士山を拝めます。富士山といえば、プレゼント6番「石部の棚田」。この写真をよーく見てください。逆さ富士があるんです、探してね。この棚田、完全なオーナー制度で運営していて14年がたちました。年間100人のオーナーがいると資金に困らないのですが、ここ数年は90人台。どうですか、いろいろな特典もありますので、オーナーになってみませんか？

温泉も豊富。プレゼント8番の桜田温泉の山芳園。自分へのごほうびで泊まってみたい宿ですよ。

松崎町は「伊豆の秘境」とはいえ、文化のかけらがあちらこちらに残っています。養蚕が200年前から盛んで、質の良さから明治期には横浜の生糸商人が大量に買い付けに訪れたほど。

廃業ホテルが復活

東海バスの終点でもある「長八美術館」は左官の鏝（こて）を使った立体アートの先駆者入江長八の作品を数多く所蔵している。館内に常備してある虫めがねで、じっくり作品を鑑賞してください。不思議な世界を旅行できますよ。

面白いニュースもあります。3年前に廃業してしまった大沢温泉ホテルが今年、リニューアルして部分的に復活します。地元名主の古民家として県指定文化財にもなっています。

旅のプロ集団「プレスマンユニオン」の名物記者、板倉あつしさんは「松崎には今と過去をつないでくれるミステリーがあっちこっちにある。それを探してください。実に愉快な秘境ですよ」と太鼓判を押す。

ぜひ、松崎町に。クセになっちゃいますよ。

---

①伊豆漁協松崎支所 伊勢エビ&サザエの詰め合わせ（5000円）

1人

地元の漁師が夕方に網を入れて、翌朝たぐると伊勢エビとサザエがかかっている。松崎の海でとれた海産物はおいしいよぉ～。ただし、海が荒れたり、伊勢エビやサザエの気分もあるので、発送が遅れる可能性もあるから、気長に待っていてくださいね。☎0558・42・0845。

---

②手づくりの味 さつまあげ「はやま」今回だけ特製の平天（ひらてん）セット（1500円）

5人

10年前まで操業していた漁師「明神丸」の血筋。静岡では「はんぺん」と称するが、全国への販売を意識して「さつまあげ」。魚全般を扱う総合商社「端山水産」を引き継いで端山智充社長が一代で立ち上げたさつまあげ専門店。店の中では「ジュー」と揚げるおいしい音色が鳴り響く。地産のうま～いさつまあげをお届けします。☎0558・43・3535。

---

③おいしく健康「アサイミート」川のりコロッケと桜葉豚みそ漬の詰め合わせ（2000円）

3人

開業昭和8年。現在の浅井眞（まこと）店主は3代目。「町を代表する名産をつくる」の一心で地元を流れる那賀川（なかがわ）で採れる名産でおいしい川海苔（かわのり）を加工してコロッケをつくったのが10年前。季節によってジャガイモの品種を変えてつくっている。桜葉豚みそ漬は、2年前から受験生のゲン担ぎに桜の花びらを漬けて「サクラサク」の気の利いた演出がされている。水曜定休。☎0558・42・0298。

---

④100％松崎町産の桑葉製品アンテナショップ「くわや」桑葉茶粉末スティック20袋&粉末100グラムセット（3000円）

3人

明治初期から繭玉（まゆだま）生産地として名をはせた。しかも、温暖な松崎町は全国でも出荷が早く繭玉に関しては「松崎相場」として注目された。桑葉茶のカルシウム分は、牛乳の約27倍。「くわや」は2年前に開業し、体に優しい桑葉製品をたくさん販売してまーす。☎0558・43・1670。

---

⑤お菓子処「梅月園」松かさ最中、さくら葉餅、さくらきんつばの詰め合わせ（3000円）

2人

松崎町で甘～いお土産といえば、梅月園。昭和6年開業のお菓子の老舗専門店。「若松かさ」、「老松かさ」2種に分け、それぞれ青えんどう豆、アズキの小倉あんを詰めた松かさ最中。町内に2店舗あって、桜田店前を流れる那賀川の両岸にはおよそ6㌔続く約1200本の桜並木。その桜をイメージしたさくら葉餅、さくらきんつばの計3種をセットにしたゴージャスな甘味の宝箱はいかがでしょうか？ ☎0558・42・0010。

---

⑥石部（いしぶ）棚田米5㌔（2000円）&棚田黒米仕込焼酎「百笑一喜（ひゃくしょういっき）」（1260円）セット

2人

5月下旬からゲンジボタルの飛び交う石部川に沿って山肌にひしめき合う完全オーナー制度の棚田。現在9人で管理していて保全推進委員会の高橋靖副会長は「水がきれいなので、甘みがあっておいしいお米ができますよ。品種はキヌムスメ。オーナーさんを募集してます」。昨年収穫したお米5㌔とコクの深い焼酎「百笑一喜」の黒米仕込をどうぞ。松崎町企画観光課いしぶ隊事務局☎0558・45・3183。

---

❼松崎温泉郷・公共の宿「伊豆まつざき荘」田舎料理プラン・ペア宿泊1泊2食付き（2万2508円～）（伊豆の長八美術館&岩科学校&明治商家中瀬邸3館共通チケット2人1400円付き）

1組2人

松崎海水浴場徒歩0分の立地条件で、なまこ壁の町並み散策などの拠点に最適です。夕食は近海でとれる地魚キビナゴ、キンメダイ、イサキなどを中心とした魚料理に舌鼓が打てる。6階の大浴場もオーシャンビューで気持ちいいよぉ～。☎0558・42・0450。

---

❽桜田温泉・源泉掛け流しの一軒宿「山芳園（さんぽうえん）」ペア宿泊1泊2食付き（3万6000円～）

1組2人

なまこ壁の蔵をくぐるように入る温泉旅館。身長187㌢の若宿主の吉田匡宏（まさひろ）さんを大きく感じない高い天井は安心できます。ヒノキ湯殿の温泉は身も心もゆったりできます。アイガモ農法の田んぼからのお米、フロントの大きないろりには自家製の木炭でポカポカ。全10室はすべて間取りが違うぜいたくさ。ゆっくりした時間の流れる山あいの静けさを堪能してください。6月いっぱいの休前日を除く。☎0558・42・2561。

---

❾大沢・道の駅「花の三聖苑」の売店&食堂「天城山房」で使える何でも利用券（3000円）

3人

あなたの食べている桜もちの葉っぱ。もしかしたら松崎町産かも。全国の桜葉の生産量の約70％をしめています。鮮やかなグリーンの桜葉そばも食せて、お土産には乾麺もあります。そのほかにお菓子やクッキーもそろってるよ。営業時間は午前9時～午後5時（食堂は木曜休み）。プレゼントの利用券は今年9月いっぱいまで。☎0558・42・3420。

---

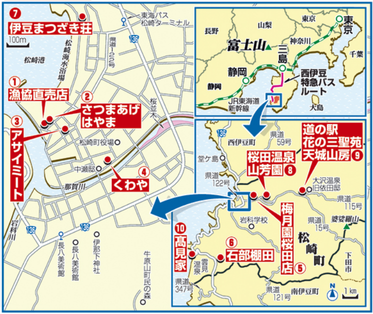
❿雲見・温泉民宿「高見家（たかみや）」ペア宿泊1泊2食付き（1万7280円～）

1組2人

創業は今年で49年目。旅館でもなく「うちは民宿ですよ」とご主人の渡辺芳彦さんは笑う。地元の高見山の近くに立っていたことが宿名の由来。海の幸、山の幸に恵まれた立地から、ご主人が自ら魚を釣りにいって、山に入って自然薯（じねんじょ）も掘ってくる。さらに自作のカラスミは絶品でーす。6月いっぱいの休前日以外を対象とします。☎0558・45・0215。

◆応募方法 はがきに希望する番号と商品の名前を書いて、さらに郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、職業、電話番号、松崎町の印象を明記してください。①～⑥は商品を発送し、❼～❿は松崎町を訪れるタイプです。〒104・8055日刊スポーツ新聞社文化社会部「2月休刊日プレゼント／伊豆・松崎町編」係。20日の消印有効。当選者の一部は、3月上旬に紙面とニッカン・コムで発表します。

▼交通 確かに松崎町は遠い。ただ、ルートは簡単だ。東海道新幹線の三島駅で降りたら、今年で開業100年の東海バスが出している「西伊豆特急バス」に乗れば終着駅は長八美術館。楽しい旅をどうぞ♪



このプレゼント企画はニッカン・コムでもご覧になれます